

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	16-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Association of alcohol consumption with the onset of natural menopause: a systematic review and meta-analysis. 飲酒と自然閉経時期の関係：系統的レビューとメタ解析		
執筆者		
Taneri PE, Kiefte-de Jong JC, Bramer WM, Daan NM, Franco OH, Muka T.		
掲載誌		
Hum Reprod Update. 2016		
キーワード	PMID	
酒、閉経、閉経年齢	27278232	
要 旨		
背景： 早発閉経は心血管障害や早世といった長期的な健康リスクと関係する。観察研究結果から、飲酒は早発閉経と関連するとされるが、まだ一致した見解は得られていない。		
目的： 早発閉経に対する新たなリスク探求の必要性、および女性の飲酒量が増加傾向にあるということから、本研究では飲酒量と閉経時期の関係を調べることを目的とした。		
方法： 6つのデータベース(Medline、Embase、Cochrane、Pubmed、Google Scholar、Web of Science)を用い、2015年11月4日迄に飲酒と閉経の関係を報告した文献を系統的に取り上げた。一定の基準に従い、2名の査読者がタイトルと要約を確認し、論文選考した。論文は、(1)観察的横断研究・前向き研究・観察研究、(2)自然閉経の研究、(3)飲酒の報告、(4)飲酒と閉経の関連を考察、(5)人間の研究、(6)がん患者でない、を要件とし、データ収集フォームを用いてデータを抽出した。主要曝露因子はベースライン時の飲酒とし、飲酒しない者を基準として比較した。また統合相対リスクを算出した。		
結果： 1,193文献のうち、20研究からの22文献を調査した。41,339名の女性データを断面調査のメタ解析に、また63,868名の女性データを観察的コホート研究に用いた。断面研究では、飲酒しない人と比べて飲酒者の早発閉経の統合相対リスク(95%信頼区間(95%CI))は0.86(0.78-0.96)だった。また飲酒なしと比較して少量から中等量の飲酒は閉経が遅くなることと関連した(週1回以上の飲酒(相対リスク(95%CI) 0.60(0.49-0.75)、週に3回以下の飲酒(相対リスク(95%CI) 0.75(0.60-0.94))。また飲酒しない女性に比べて飲酒する女性の早発閉経の相対リスク(95%CI)は0.95(0.91-0.98)だった。また、飲酒量の解析では、飲酒しない女性と比べて、低・中等量の飲酒(0-8g/日)(相対リスク(95%CI) 0.95(0.93-0.98)と16g/日以上の飲酒(相対リスク(95%CI) 0.89(0.86-0.92)は閉経が遅くなることと関連した。		
結論： 小・中等量の飲酒は、閉経が遅いことと強くはないが関連した。		